



● 今月号の元気な話題 ●

水	みやぎ水産の日"漁協の夕市"復活祭が開催されました	
漁	【水産漁港部】	1
農	いちごの摘み取りシーズンが始まります！	
振	【農業振興部】	2
林	七ヶ浜町代ヶ崎浜地区で植樹祭が開催されました	
振	【林業振興部】	2
畜	松島町で令和2年度特定家畜伝染病防疫演習を実施しました	
振	【畜産振興部（仙台家畜保健衛生所）・地方振興部】	3
水	乾海苔の初入札会が開かれました	
漁	【水産漁港部】	3
地	「仙台地域ミライ企業図鑑～地域産業説明会」×SDGs×コロナ対策	
振	【地方振興部】	4
亘	「亘理地域若手女性農業者研修会」を開催しました	
理	【亘理農業改良普及センター】	4

みやぎ水産の日"漁協の夕市"復活祭が開催されました

▶水産漁港部

11月18日（水）に宮城県漁協七ヶ浜支所で、「みやぎ水産の日"漁協の夕市"復活祭」が開催されました。漁協の夕市は、毎月第3水曜日の"みやぎ水産の日"に併せて宮城県漁協七ヶ浜支所が開催しており、地域の方々からも非常に人気のある催しです。しかし、今年3月からは新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、残念ながら中止せざるを得ない状況となっていました。そのため、感染対策を徹底した上で8ヵ月ぶりに再開された今回の夕市は、復活を待ちわびたお客様の喜びと期待感に満ちたものとなりました。

会場にはボッケ（標準和名：ケムシカジカ）や新乾海苔など、多くの目玉商品が並び、来場特典として鳴瀬産のカキと七ヶ浜産の初摘み生海苔をたっぷり使用したカキ海苔汁も振る舞われました。来場された方々は、久しぶりの活気ある夕市を堪能された様子で、マスク越しでもわかるほど笑顔に溢れたひとときとなりました。

漁協の夕市は、今後も開催される予定です。皆様もぜひ一度ご来場ください。



▲目玉商品のボッケ



▲新乾海苔

いちごの摘み取りシーズンが始まります！

▶ 農業振興部

仙台市泉区松森にあるいちご摘み取り農園では、令和3年1月3日（日）からいちごの摘み取りが楽しめます。この農園は、山元町にある株式会社一毎一笑（いちごいちえ）が運営する松森農場で、暖かい大型ハウスの中では、様々な品種のいちごを食べ比べすることができます。今シーズンは「とちおとめ」「紅ほっぺ」「よつぼし」「恋みのり」に加え、宮城県オリジナル品種の「もういっこ」とデビューしたばかりの「にこにこベリー」の計6品種を味わうことができます。

栽培ベンチの高さが2段となっており、大人も小さなお子様も楽な姿勢で摘み取りができます。通路も広く、車椅子やベビーカーでの来園も心配いりません。また、お土産用のいちごやいちごを使ったお菓子などの加工品も購入できるほか、いちごについて学べるパネル展示もあり、楽しい時間を過ごせます。

営業時間や料金、アクセスのほか新型コロナウイルス感染症対策の詳細については、ホームページ等でご確認いただき、ぜひご家族、ご友人と一緒に立ち寄りください。



▲ ゆったりしたハウス内



▲ お土産用の販売もあります！

七ヶ浜町代ヶ崎浜地区で植樹祭が開催されました

▶ 林業振興部

東日本大震災の津波で被災した防災林を再生するために、七ヶ浜町では11月3日（火）の文化の日に、代ヶ崎浜地区の住民が主体となり植樹祭を開催しました。

この植樹祭は、県が令和元年度に防災林造成事業により造成した区域の一部を会場に、地元からの「地域で守り育てる海岸林としたい」という強い要望を受けて開催されたものです。

当日は晴天にも恵まれ、代ヶ崎浜地区の住民を中心に、近隣の企業及び森林ボランティアなど126名が参加して、オオシマザクラやカシワなど広葉樹を主体とした17種類317本を植栽しました。

この植樹祭を通して地域が一体となって立派な海岸林を育む機運が高まったことに加え、将来にわたりその機能が持続発揮されることが期待されます。

海岸防災林の復旧に当たっては、震災から10年目を迎え、県全体でも復旧整備が完了に近づきつつありますが、県としても引き続き適切な保育管理を行い、後世に残る海岸林の整備を進めていきます。



▲ 住民による植樹の様子



▲ 植栽した防災林の全景（ドローンにより撮影）

松島町で令和2年度特定家畜伝染病防疫演習を実施しました

▶畜産振興部（仙台家畜保健衛生所）・地方振興部

10月29日(木)に、松島町での高病原性鳥インフルエンザの発生を想定し、松島町東部地域交流センターにおいて、特定家畜伝染病防疫演習を実施しました。今回の防疫演習では、防疫資材備蓄倉庫からの初動資材の搬出、集合施設及び発生農場仮設テントの設置運営、従事者の健康調査、発生農場仮設テントにおける防疫服の着脱と防疫措置について、演習を行いました。

当日は、仙台管内の県地方機関及び関係部署等から95人（見学者を含む）が参加しました。

また、演習には多くの従事者が集まるため、新型コロナウイルス感染防止対策についても事前に協議し、併せて検証しました。

防疫演習に向けた事前準備と当日の運営を通じて、関係者は連携体制をより深めることができ、概ね順調に演習を終了することができました。今シーズンは、既に国内の養鶏農場で高病原性鳥インフルエンザが発生しています。今回の演習を活かし、仙台管内での特定家畜伝染病対策の対応力を強化していきます。



▲仮設テントでの着衣訓練の様子



▲新型コロナウイルス対策として入口で検温を実施

乾海苔の初入札会が開かれました

▶水産漁港部

今年度の宮城県産乾海苔の初入札会が11月19日(木)、宮城県漁協塩釜総合支所で開催されました。

今年度は台風の影響もなく、概ね順調に生産が行われています。

全国で最も早い乾海苔の入札会ということもあり、会場には全国から多数の買受人や関係者が集まり、熱心に品質を確かめていました。

上場枚数は、台風被害などで近年最低にとどまった昨年度の2倍ほどの2,166万枚に達しました。平均単価は、1枚当たり13.43円で取り引きされ、過去10年では比較的高い水準にあります。今期の入札会は来年の5月まで開催される予定で、県全体で約4億枚の生産を見込んでいます。

親潮（寒流）が流れ込む栄養豊富な漁場で育てられた宮城の海苔は「みちのく寒流のり」として全国から高い評価を受けています。みなさんもぜひ、ご賞味ください。



▲見付けの様子



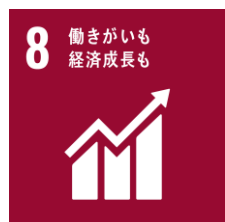
▲電子入札開票の様子

11月10日（火）、名取高校、巨理高校、宮城農業高校の2年生約400名を対象に、地域の産業や企業を知ってもらうイベントを開催しました。企業は、名取・巨理地区を中心に、機械製造、食品製造、販売、福祉など様々な業種の計30社が参加しました。なお、当日は、検温や手指消毒、飛沫防止等の新型コロナウイルス対策を実施した上での開催となりました。

参加企業からの説明は、仕事内容や働く様子などをまとめた動画やクイズ、参加高校のOB・OGや若手社員による体験談など、生徒の興味をひくよう随所に工夫されており、生徒も熱心に耳を傾けている様子が見られました。

参加した生徒からは、「今まで知らなかった企業の話が聞けて、視野が広がった」、「これを機にもっといろいろな企業を調べてみたいと思った」などの感想が寄せられ、生徒にとって充実した時間となりました。

本事業では、SDGs（持続可能な開発目標）のうち、「質の高い教育をみんなに」「働きがいも経済成長も」を掲げ、地域社会・産業の持続的な発展に繋がることを目指し、高校生の進路選択や就職活動の手助けになるよう、地域企業のPR強化や高校でのキャリア教育の活性化に取り組んでいます。



▲ 会場の様子



▲ 熱心に説明を聞く生徒たち

「巨理地域若手女性農業者研修会」を開催しました

▶ 巨理農業改良普及センター

女性農業者は、地域農業の発展に重要な役割を担っており、今後も多様な分野での活躍が期待されています。当センターでは、若手女性農業者を対象に、今後の農業経営へ活かすことや参加者同士の交流を深めることを目的に、11月26日（木）に「若手女性農業者研修会」を開催しました。当日は、土地利用型作物や果樹・花き栽培経営者等6名の参加がありました。

研修会では、「県産食材への思い、県産農産物を使ったメニュー開発」について、仙台国際ホテルレストラン「ロジェ ドール」の佐藤 亮料理長より、県産農産物に対する消費者ニーズやメニュー開発時に考慮すること、メインディッシュを彩る季節感のある野菜や果物の重要性等について講話をいただきました。



▲ 佐藤 亮料理長からの講話を熱心に聞く参加者

また、交流会では、新型コロナウイルス感染症対策として、全員フェイスシールドを着用しながら、仙台国際ホテルの旬の食材を使ったランチメニューを堪能し、短時間ながら参加者同士の交流を深めました。

当センターでは、今後も研修会等を通じて、若手女性農業者への支援を継続していきます。

作成：宮城県仙台地方振興事務所地方振興部

電話：022-275-9140（担当：首藤）

次号は令和3年2月下旬発行予定です。